

最高裁判所見学会～広報委員会市民交流部会の活動報告～

広報委員会 副委員長・市民交流部会 部会長 沖 陽介 (65期)

- 1 広報委員会市民交流部会では、司法を身近に感じていただくことを目的に、毎年、一般市民の方々を30名募集し、裁判所、検察庁、刑務所等の司法関連施設の見学会を行い、弁護士と市民との交流を通じて広報活動を実施しています。
- 2 2025年10月22日に最高裁判所の見学会を行いました。この企画は市民メンバーの関心が特に高く、19名の市民メンバー及び7名の広報委員会委員、事務局職員の総勢27名が参加しました。当日は、最高裁判所の職員の方々に、大ホール、大法廷、図書館、小法廷などをご案内いただいた後、当会ご出身の高須順一判事との懇談会を行いました。
- 3 今年は図書館の見学が特に充実していました。例年は、入口近くのスペースで、図書館の概要説明を受け、聖徳太子を題材とする3枚の絵画などの展示物をご紹介いただき、近くの書籍棚を見学して回るのですが、今年はさらに図書館の奥のほうまでご案内いただき、古い書籍を保管している部屋を見学しました。本を手にとってよいとのことでしたので、たまたま目に留まった法令集を広げると、明治時代のものであったと思いますが、紙は茶色くなっているものの字はハッキリと読み取ることができました。最高裁判所庁舎の中という特別な場所であったということもあり、当時の法律家がこの本をまとめ、その内容が現代の法律に反映されている、私が普段扱っている法律がそのような歴史の積み重ねの産物なのだと思うと身が引き締まりました。
- 4 その後は第二小法廷における高須判事との懇談会です。高須判事は、大小合わせて20問以上もあった事前質問リストにあらかじめ目を通し、最高裁判所の仕事の内容、やりがい、判事になるまでの経歴や弁護士時代の仕事との違いなどのほか、最高裁判所の組織や運営の話、国民審査や裁判員制度などについて分かりやすくお話しいただき、市民メンバーのお子さんからの読書に関する質問にも丁寧に答え



てくださいました。個人的には、多くの難しい事件を抱えながら時間をかけて検討することを惜しまない高須判事の仕事に対する熱意が特に印象的でした。質問時間が終わってからは市民メンバーが次々に高須判事に話しかけに行き、それにも一人一人丁寧にご対応いただき、最後に法廷の壇上で高須判事を囲んで写真撮影する機会も頂戴しました。最高裁判事として重みのある話を、その温厚なお人柄で、和やかで接しやすい空気を作ってお話しくださいました。

- 5 高須判事及び最高裁判所の職員の方々におかれましては、本企画の実現に多大なご協力をいただき、この場を借りてあらためて御礼申し上げます。参加した全ての市民メンバーから非常に貴重な経験になったという感想をいただいています。
- 6 弁護士のイメージアップを図る活動は様々なところで行われていますが、一般市民の中には、弁護士は堅くて相談しにくいというイメージがまだに残っています。このようなイメージを変えていく活動を弁護士会が今後も続けていく必要があると私は考えます。市民交流部会は、月に一度程度のペースで活動しています。ご興味がありましたらぜひ当部会にご参加いただければ幸いです。